

宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

宮崎県第34週の発生動向

□ 今週のトピックス

・麻しん(全数把握対象)の報告が都城保健所から1例あった。今年県内での報告は4例目となった。患者は20歳代女性で、ワクチン接種歴は1回であった。

□ 全数報告の感染症 (34週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核7例。

3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症2例。4類感染症：E型肝炎1例、つつが虫病1例。

5類感染症：後天性免疫不全症候群1例、侵襲性肺炎球菌感染症1例、麻しん1例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	宮崎市	50歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱
		高鍋	20歳代	女	無症状病原体保有者	—
			20歳代	女	無症状病原体保有者	—
			30歳代	女	無症状病原体保有者	—
			40歳代	女	無症状病原体保有者	—
			40歳代	女	無症状病原体保有者	—
		高鍋	60歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	20歳代	女	無症状病原体保有者	O115(VT1産生)
		小林	50歳代	女	無症状病原体保有者	O1(VT1産生)
4類	E型肝炎	宮崎市	70歳代	女	患者	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常
	つつが虫病	都城	20歳代	女	患者	発熱、リンパ節腫脹、脾腫、上腹部・背部痛
5類	後天性免疫不全症候群	宮崎市	10歳代	男	無症候性キャリア	—
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	90歳代	女	患者	発熱、全身倦怠感、意識障害、肺炎、菌血症 ワクチン接種歴不明
	麻しん	都城	20歳代	女	検査診断例	発熱、咳、発疹、嘔吐

□ 定点把握の対象となる5類感染症

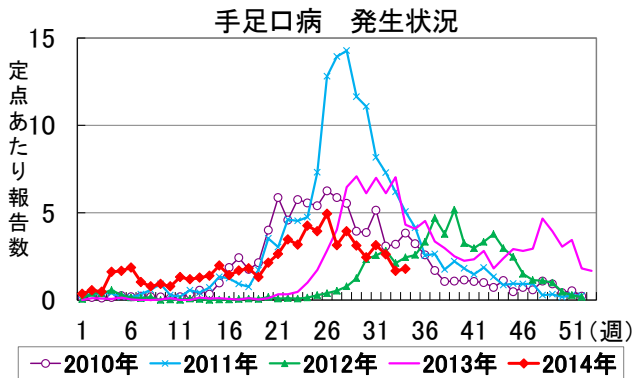
・定点医療機関からの報告総数は524人（定点あたり15.2）で、前週比88%と減少した。前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌感染症と手足口病で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱とヘルパンギーナであった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

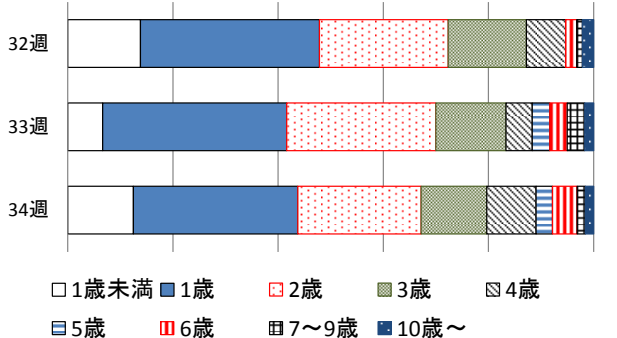
【手足口病】

・報告数は64人（1.8）で前週比107%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値*（3.7）の約0.5倍であった。年齢別では1歳から2歳が全体の約半数を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週（計15週）の平均値



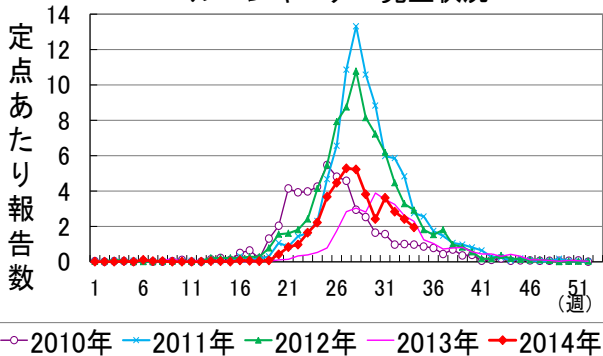
手足口病 年齢別推移 (3週分)



【ヘルパンギーナ】

・報告数は70人（1.9）で前週比80%と減少した。例年同時期の定点あたり平均値*（2.3）の約0.8倍であった。年齢別では1歳から2歳が全体の約6割を占めた。

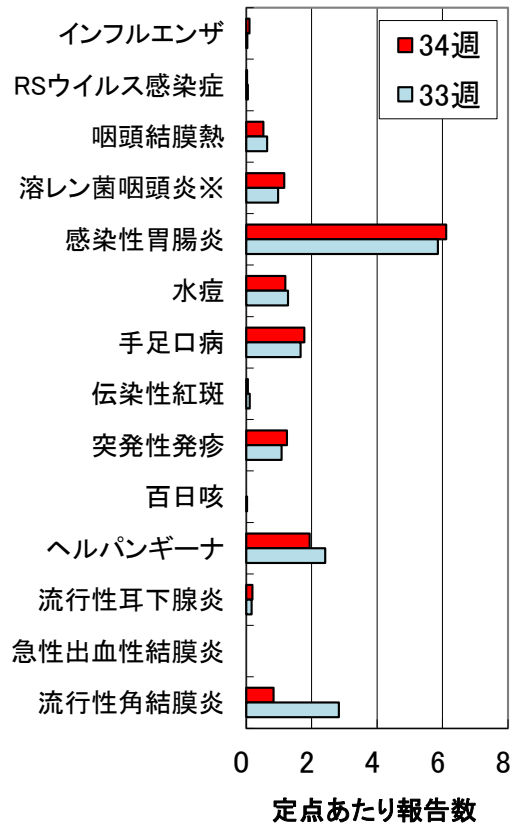
ヘルパンギーナ 発生状況



★流行警報・注意報レベル基準値超過疾患★

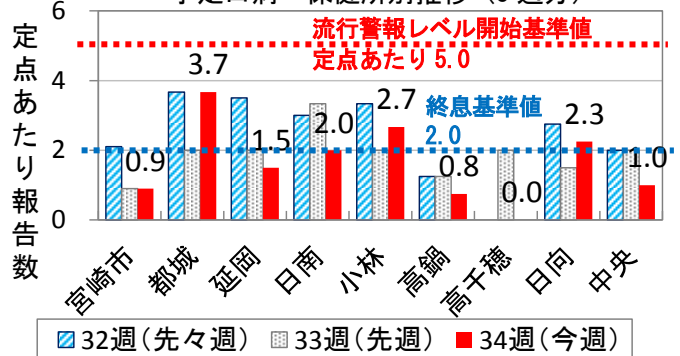
報告なし。

《前週との比較》

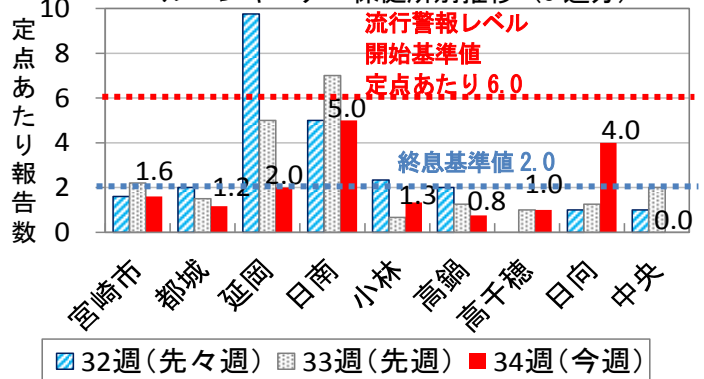


※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

手足口病 保健所別推移 (3週分)



ヘルパンギーナ 保健所別推移 (3週分)



□ 病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成 26 年 8 月 25 日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同日
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	女	2014.8.5	百日咳疑、発熱(39.0℃)、咳嗽、下気道炎、気管支炎	咽頭ぬぐい液	2014.8.18
<i>Bordetella pertussis</i> (百日咳菌)	0~4	男	2014.8.7	百日咳疑、発熱(39.0℃)	咽頭ぬぐい液	2014.8.18
腸管凝集付着性大腸菌(O86a:HNM,aggR)	0~4	男	2014.8.8	EPEC疑	便	2014.8.19
EPEC(OUT:H21, eae)	不明	男	2014.8.11	EPEC疑	便	2014.8.25
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0~4	女	2014.8.14	—	便	2014.8.20
<i>Salmonella</i> Mbandaka (O7:z10:e,n,z15)	40歳代	女	2014.8.16	—	便	2014.8.23
<i>Salmonella</i> Infantis(O7:r:1,5)	0~4	男	2014.8.18	—	便	2014.8.23

○0~4歳の男児から腸管凝集付着性大腸菌(EAggEC) O86a:HNM,aggRが検出された。EAggECは腸管への凝集にかかわるaggR遺伝子を持ち、細胞や培養容器に凝集付着する下痢原性大腸菌である。2011年5月、ドイツ北部を中心に腸管出血性大腸菌(EHEC)のアウトブレイクが起こった。詳細な調査の結果、起因菌となったO104:H4はEAggECとEHECの両方の特徴を持っており、凝集付着因子と志賀毒素を併せ持つEAgg-EHECであったことから、溶血性尿毒症症候群が多発したと考えられている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	材料	検出日
コクサッキーウイルスA4型	6	男	2014.06.22	急性脳症疑い、39.0℃、けいれん、意識障害、頸部硬直	咽頭ぬぐい液	2014.08.21
コクサッキーウイルスA4型	1	女	2014.07.03	ヘルパンギーナ疑い、38.1℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2014.08.21
コクサッキーウイルスA4型 ライノウイルス	1	男	2014.07.01	ウイルス感染症疑い、39.0℃、けいれん、下気道炎、横紋筋融解	咽頭ぬぐい液	2014.08.21
コクサッキーウイルスB5型	1ヶ月	女	2014.07.17	髄膜炎、38.7℃	咽頭ぬぐい液	2014.08.18
麻疹ウイルス	20歳代	女	2014.08.19	麻疹、発熱、発疹、嘔吐	咽頭ぬぐい液、尿、血液	2014.08.20

○急性脳症、ヘルパンギーナ、ウイルス感染症疑いの各小児からコクサッキーウイルスA4型が分離された。また、下気道炎を呈した小児1名からライノウイルスが検出され、コクサッキーウイルスA4型との重複感染がみられた。
○髄膜炎と診断された乳児からコクサッキーウイルスB5型が分離された。当所では今年に入り3例分離されており、いずれも1歳未満の乳児で髄膜炎や脳症の症状を呈していた。
○麻疹と診断された成人女性から麻疹ウイルスが検出された。本県において麻疹ウイルスの検出は今年に入り4例目である。遺伝子型はB3であった。麻疹は強い感染力をもち空気感染により感染すること、また予防接種で予防可能な感染症であることから、免疫のない人は早めに予防接種を行うなど対策が必要である。

📊 全国第33週の発生動向

□ 全数報告の感染症（全国第33週）

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	388例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	231例				
4類感染症	E型肝炎	1例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	2例
	つつが虫病	2例	デング熱	1例	日本紅斑熱	4例
	レジオネラ症	14例				
5類感染症	アメーバ赤痢	12例	ウイルス性肝炎	1例	急性脳炎	5例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1例	後天性免疫不全症候群	21例
	ジアルジア症	1例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	8例
	梅毒	19例	破傷風	3例	風しん	1例
	麻しん	6例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関あたりの患者報告総数は前週比72%と減少した。今週増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患は伝染性紅斑とヘルパンギーナであった。

RSウイルス感染症の報告数は593人(0.20)で、前週比111%と増加した。沖縄県(1.1)、鹿児島県(0.78)、和歌山県(0.74)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月~1歳が全体の約7割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は7,288人(2.4)で、前週比65%と減少した。新潟県(7.3)、長野県(6.2)、山形県(5.4)からの報告が多く、年齢別では1~2歳が全体の約半数を占めた。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2014年 第34週(08月18日～08月24日)

疾病名		第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2	6	5					1			
	定点あたり	0.03	0.10	0.31	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	2	1			1						
	定点あたり	0.06	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	23	19	6	3	4	1		3		2	
	定点あたり	0.64	0.53	0.60	0.50	1.00	0.33	0.00	0.75	0.00	0.50	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	35	42	6	3	8	8	2	7	3	4	1
	定点あたり	0.97	1.17	0.60	0.50	2.00	2.67	0.67	1.75	3.00	1.00	1.00
感染性胃腸炎	報告数	211	220	44	32	23	37	35	17	5	23	4
	定点あたり	5.86	6.11	4.40	5.33	5.75	12.33	11.67	4.25	5.00	5.75	4.00
水痘	報告数	46	43	13	13	7	1	2	2		5	
	定点あたり	1.28	1.19	1.30	2.17	1.75	0.33	0.67	0.50	0.00	1.25	0.00
手足口病	報告数	60	64	9	22	6	6	8	3		9	1
	定点あたり	1.67	1.78	0.90	3.67	1.50	2.00	2.67	0.75	0.00	2.25	1.00
伝染性紅斑	報告数	4	2				2					
	定点あたり	0.11	0.06	0.00	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	39	45	12	8	3	3	7	5		3	4
	定点あたり	1.08	1.25	1.20	1.33	0.75	1.00	2.33	1.25	0.00	0.75	4.00
百日咳	報告数	1										
	定点あたり	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	87	70	16	7	8	15	4	3	1	16	
	定点あたり	2.42	1.94	1.60	1.17	2.00	5.00	1.33	0.75	1.00	4.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	6	7	3		1					2	1
	定点あたり	0.17	0.19	0.30	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	17	5	3	2							
	定点あたり	2.83	0.83	1.00	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2014年第1週～34週)

2類感染症	結核	136例(7)				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	19例(2)				
4類感染症	E型肝炎	3例(1)	A型肝炎	15例	重症熱性血小板減少症候群	11例
	つつが虫病	6例(1)	日本紅斑熱	4例	ボツリヌス症	1例
	レジオネラ症	8例				
5類感染症	アメーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎	2例	急性脳炎	5例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	7例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症	9例(1)
	梅毒	9例	破傷風	1例	風しん	1例
	麻しん	4例(1)				

()内は今週届出分、再掲